

書 面 開 催 結 果

会議の名称	令和2年度第2回岩倉市廃棄物減量等推進協議会
書面開催時期	令和3年3月
書面により回答した委員	河合委員、若園委員、宮堂委員、関戸委員、小笠原委員、 工藤委員、船橋委員、大矢委員、内藤委員、桜井委員、 小川委員、寺本委員、加藤委員、岩田委員、吉田委員、 木村委員、橋本委員、石黒委員 (全委員より回答あり)
議題	(1) 協議事項 ・岩倉市一般廃棄物処理計画 令和3年度実施計画(案)について (2) 報告事項 ・令和2年度フードドライブの実績報告について ・分別品目「乾電池類」の新設について
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 協議会の会長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
資料の名称	・岩倉市一般廃棄物処理計画 令和3年度実施計画(案)について(資料1) ・令和2年度フードドライブの実績報告について(資料2) ・分別品目「乾電池類」の新設について(資料3)
協議事項に対する承認の可否	承認 18人 不承認 0人
その他の事項	協議事項に対する意見及び市の考え方については、別紙のとおり

議題 岩倉市一般廃棄物処理計画 令和3年度実施計画（案）
 に対するご意見

	ご意見	市の考え方
1	ごみ集積所の不備等チェックして、改善がみとめられない場合、場所を移動など中止を含め集積所のありかたなどみなおし時期にきていませんか？	ごみ集積場所は、地区からの申し出・調整を受けて設置されており、周辺住民にとって必要なものとしてそこにあるものです。そのため、たとえマナーが悪い集積場所であっても、いきなり廃止、移動するのではなく、地元区と協力しながら粘り強く改善に努力していくことが基本であると考えます。しかしながら、転入者の増加によって、かつての住民構成から変わってきていることもありますので、集積場所については課題を整理しながら、周辺自治体の状況等を参考するなどして、調査・研究してまいります。
2	コロナの為、外食が減った分の可燃ごみの量とテイクアウト用の不燃ごみの量が各々100tもふえている原因でしょうか？その分業者の量は減っているのでしょうか？	コロナ禍のもと在宅時間が増加し、家の中を片付ける人が増えているため一般家庭からの可燃及び不燃ごみの排出量が増加したものと考えます。逆に、事業者による小牧岩倉エコルセンターへの可燃ごみ等の搬入量が減少したのは、ご指摘のとおりコロナ禍による外食店舗の利用自粛や営業時間短縮要請が影響しているものと思われます。
3	<p>岩倉市の課題は生活排水処理対策と思われます。浄化槽の保守点検、法定検査の実施率が低いと言われておりますが、現在の実施状況、放置した場合の問題点、悪質又は手抜き業者への対応等、浄化槽協会等とも連携のうえ、また、市民の関心を高められるよう、広報活動に力を入れられると良いと思います。</p> <p>また、市民、企業の浄化槽管理の実態把握に努められることで、設置数等の統計数値では判らない問題が浮き上がると思います。</p>	<p>岩倉市の浄化槽法定検査実施率は20%強に留まっており、愛知県内の平均は上回っているものの、本来100%実施されるべきことを考えると、低い状況です。保守点検・法定検査ともに、愛知県や浄化槽協会など関係機関と連携し、広報活動を始めたこととした実施率向上のため取組を行ってまいります。</p> <p>また、清掃・保守点検業者とも連携し、浄化槽管理の実態把握にも努めてまいります。</p>

4	<p>コロナ禍においてプラスチック製容器包装資源の量が増加することが予想されると思う。令和3年度の計画量が微減しているが、微増になるのでは？</p>	<p>実施計画におけるごみ等の排出量推計値は、上位計画である基本計画の推計値を引用しております。基本計画の推計値はそれまでの実績から将来の傾向を分析したもので、平時であれば特に問題ない数値であると考えます。昨年からのコロナ禍については、このさき収束して本来の傾向に戻っていくのか、あるいはこのまま継続してしまうのか判断が難しいですが、現状、官民一体となって取り組んでいる対策によりコロナ禍が収束していく、という立場で実施計画を策定しています。引き続き、コロナをめぐる状況については、その影響を注視していきます。</p>
---	--	---